ディスカッションでの意見

（会場で交わされた意見交換を一部紹介します。）

Q：地元以外の人がまちづくりに参加する場合に簡単に受け入れられる事は少ないと思うが、村上市やならまちではどうか？

A：（吉川氏）村上市の場合は私自身が気にせず進めたのが良かったのではないか。北は北海道の小樽から南は沖縄の竹富島まで280ヶ所を４年半かけて集中して回ったが、地域ごとにすばらしい事をされている場所ではよそから来た人がやっていらっしゃる事が多くあった。方法も色々と勉強したが、何よりも感動をもらったという事が村上市で進める時に非常に熱く語れた。相手がどう思うという事と関係なく、こういう事をやったらすばらしいという事を語れ、感動する事が、どんどん進めたという事が比較的短期間でうまくいった秘訣ではないか。

A：（今来氏）私の町内は古いところなので８割の人は地元に住んでいる。しかし少し空き家があるので買ったり借りたりして人もいるが、その中には町内会に参加されない方もいる場合もある。どれだけ好きで誇りを持って住んでいるか、ビジネスではなくてここがすきでと言われたら嬉しいですね。

Q：学校教育との連携はどうか？

A：（吉川氏）保育園、幼稚園、小学校から見学に来て、町屋や歴史の事について学んでいる。またある学校では子ども達にお客様の多い日にボランティアをさせている。当日まで「どういう場所でお仕事をする」とか「電話をかける」などの教育プログラムから始まり、一緒に飾りつけや掃除をする、お客様に人形の説明をする、お茶を出すなどの作業をしてもらっている。終わった後に感想文・反省文を書いて来年に向けての提案を書いてフィニッシュにしている。

A：（林氏）ならまちではじっくりと美しいという感覚で町屋・看板・瓦屋根を見る子ども達の写生会や子ども達の探索ラリー、ならまち探偵団を組織して子ども達がしっかりと今のならまちの現状を見る様な催しをしている。

Q：まちづくりは一過性ではなく、長期のスパンで考えなければならないが、今後人材の育成や次のバトンタッチはどう考えているか？

A：（吉川氏）後継者は本当に私共のこれからの課題。最初の立ち上げは勢いで進めたが、２回目以降は実行委員会が立ち上がり、30・40代の若手で構成されている。50代の会計係、70代の方がお目付け役でご意見番として入っていて、非常にいいバランスである。その中から自然と生まれてくるのではないか。

意見交換の様子